

東日本大震災における支援金の実態 —多様な支援活動の担い手を育てるために—

中嶋貴子（大阪大学 大学院国際公共政策研究科 博士後期課程）

馬場英朗（関西大学 商学部 准教授）

東日本大震災では、2012年6月12日現在、3,677億円が義援金として各都道県に送金されている。災害時に市民から寄せられる寄付には、全額が見舞金として配分される義援金のほか、民間組織などの被災者支援活動の援助金となる活動支援金があるが、義援金と比較すると小規模とされてきた。ただし、活動支援金については、資金の流れや全体像を含めて、その実態は十分に把握されていない。そこで、本研究では、主要な寄付を集めた民間組織における資金フローの調査を行った。その結果、震災後、概ね1年間に民間組織を経由した寄付総額は6,000億円を超え、活動支援金にも700億円以上が集まったと見込まれるが、依然として活動支援金への寄付は十分とは言い難く、より効果的に支援活動に資金が流れる仕組みの整備が求められる。